様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月３日現在

機関番号：８２７２０
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：２００８～２０１０
課題番号：２０７２００３０
研究課題名（和文）南都文化圏における霊験仏信仰とその造像に関する調査研究
研究課題名（英文）Study on the belief in Miraculous Buddhist Images and creating Buddhist Sculpture in Nanto culture.

研究代表者
瀬谷　貴之（SEYA TAKAYUKI）
神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員
研究者番号：５０４４３４１１

研究成果の概要（和文）：
本研究は、現在の奈良地方（南都）で古代以来行われた、利益や奇跡をもたらす仏像である霊験仏への信仰が、その模刻などを通して全国各地へ広まり、日本彫刻史に大きな影響を与えていることを明らかにした。また特に鎌倉時代初期に活躍した、我が国で最も著名な仏師でもある運慶の造像活動が、実はこの南都を中心とした霊験仏信仰とも密接に関わっていることも明らかにした。研究成果の一部は、神奈川県立金沢文庫の展覧会においても広く一般に公開することが出来た。

研究成果の概要（英文）：
This study clarified that the belief in Miraculous Buddhist images, which give profits and Miracles in Nara region (Nanto) since ancient era, spread its copies all over Japan and had great influence in the history of Japanese Buddhist sculpture. And also clarified that the activity of the most famous Japanese Buddhist sculptor, Unkei in the early Kamakura period involved closely with the belief in miraculous Buddhist image especially in Nanto region. Some of the research results were open to the public with the exhibition “Unkei” (2011) in Kanagawa Prefectural Kanazawabunko Museum.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史
キーワード：南都、霊験仏、模刻、清涼寺式釈迦如来像、奈良仏師、運慶、東寺講堂、舎利信仰、

１．研究開始当初の背景

（１）従来の日本彫刻史研究では、各個別作品について、時代様式のなかにそれを位置づけることが、研究の中心の一つであった。近年、そのような様式史に対して、彫刻（仏像）にはそれぞれの時代や地域などに、特有の「型」が存在し、それが模刻・模像されることにより、時代様式とは別に、仏像のかたちを決定する大きな要因となっていることが指摘されている。

（２）またこの「型」と模刻・模像の形成に大きな役割を果たしたのが、特別な利益をもたらしたり、奇跡を起したりと考えられていた仏像に対する信仰、すなわち霊験仏信仰である。しかし、従来の日本彫刻史研究においては、霊験仏の模刻・模像については、善光寺式三尊像など特徴の著しい霊験仏だけが注目されたり、その作例を多く集め、分布の範囲や、微妙な違いによる種類分けに留まったりする研究が多かった。

（３）研究代表者は近年、この霊験仏信仰と模刻・模像の問題について取上げることが多かった。そして、この問題を考えるについては、平安遷都以降も、一大宗教都市として機能した南都、すなわち現在の奈良地方において展開した霊験仏信仰について考察することが、最も重要であるとの認識に至った。

２．研究の目的

本研究では、南都文化圏の広がりにおける霊験仏信仰とその造像＝模刻・模像が、具体的にどのように展開し、日本仏教美術史上いかに大きな影響を与えているかを明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

（１）南都文化圏を中心に現在残る彫刻作品を、仏画などの絵画作品や文字資料も含めて検討することにより、今まで知られなかった霊験仏の模刻像とされるものが、数多く存在することを指摘する。

（２）また一方で、南都と関連する、すでに著名な長谷寺式十一面観音像や、清涼寺式釈迦如来像などの模刻・模像についても、中世律宗（真言律宗）の活動に着目することにより、個々の事例について検討し、具体的な造像背景や、変容についても明らかにする。

（３）南都における霊験仏信仰とその関連する造像は、古代以来のその信仰が、中世の模刻・模像によって大きく展開するところに特色がある。この模刻・模像の多くを担当した仏師運慶を中心とする慶派仏師そのものの製作活動が、その後の霊験仏信仰を生み出すことになることを跡づけたい。

４．研究成果

（１）鎌倉時代の清涼寺式釈迦如来像の模刻や、南都を中心とする釈迦信仰のあり様を考えるうえで、最重要作品と考えられる京都・峰定寺の釈迦如来立像（解脱上人貞慶周辺において造像）と岐阜・即心院（旧奈良・正暦寺伝来）の釈迦如来立像などについて現地調査を行った。また所属館への借用も行い、詳しく写真撮影などの調査研究も行うことができた。なお両像については関連資料として金沢文庫本『讃仏乗抄』があり、実作品と資料とをつき合わせることができた。以上のことから鎌倉時代の南都を中心に、一尺六寸で金泥塗りの釈迦如来像が、清涼寺式の形式をとりながら、いわゆる宋風受容の指標となっていたことなどを明らかにできた。この成果については、神奈川県立金沢文庫特別展「釈迦追慕―称名寺釈迦如来像造立７００年記念―」（２００８年１０月～１２月）において広く一般にも展示や図録を公表することが出来た。

（２）鎌倉時代の南都仏師運慶の重要作品である、当文庫保管の大威徳明王像についても調査研究を行った。同像は、建保四年（1216）鎌倉幕府三代将軍源実朝の後宮で筆頭役を務めた大弐局の発願により、運慶により作られた。また金沢文庫には、運慶の活動を考えるうえでの最重要資料の一つ『東寺講堂御仏所被籠御舎利員数』（運慶による弘法大師空海所縁の東寺講堂諸尊像の修理記録）が保管されている。大威徳明王像と同資料を中心に検討したところ、運慶は東寺講堂諸尊像の修理を通して、古典学習を行い大日如来像や大威徳明王などの密教系尊格の造像に反映させていること、かつ修理時の仏舎利発見により霊験仏信仰と密接に関わっていったことなどを明らかにした。特にこの成果については、美術史学会において中間報告的に発表することが出来た

（３）叡尊による真言律宗（西大寺流）を中心とした中世律宗の関東における活動について、特にその信仰の中心的な位置を占めたと考えられている、弥勒菩薩と愛染

明王の諸像について調査研究を行った。弥勒菩薩については、それが鎌倉時代後半に盛行した舎利信仰のうちでも、国難を救うとされた室生寺仏舎利と密接に関連して展開した可能性を、神奈川・称名寺光明院・弥勒菩薩坐像を中心に検討した。また愛染明王については、五島美術館像（鶴岡八幡宮旧蔵）が、源実朝が発願して運慶が製作したと考えられていた、鶴岡八幡宮北斗堂本尊であったことを明らかにした。そして、鶴岡八幡宮北斗堂本尊が、鎌倉時代後半に愛染明王信仰を鼓吹した真言律宗により取り込まれた可能性を提示した。この南都の影響を背景とする中世律宗の弥勒菩薩と愛染明王信仰の、関東での展開・活動については、京都国立博物館で行われた仏教美術研究上野記念財団助成研究会で発表した。

（４）南都仏師の代表的存在である仏師運慶と霊験仏信仰について、特に調査研究を行った。そして数少ない運慶作品のうち、奈良・円成寺所蔵大日如来坐像、東京・真如苑所蔵大日如来坐像、栃木・光徳寺所蔵大日如来坐像、神奈川・浄楽寺所蔵不動・毘沙門天立像、愛知・滝山寺所蔵帝釈天立像については、現地での調査の他、神奈川県立金沢文庫特別展「運慶―中世密教と鎌倉幕府―」（２０１１年１月～３月）において出品が実現し、詳しく実査する機会にも恵まれた。このうち円成寺大日如来をはじめとする運慶による三体の大日如来坐像と、滝山寺帝釈天像、金沢文庫保管の光明院諸像大威徳明王像は、弘法大師空海発願の東寺講堂諸尊像との関係性が重要である。すなわち運慶は密教尊像を造立するにあたっては、東寺講堂諸尊像を常に意識し、参考としていたからである。このことについて、実作品と、金沢文庫保管の『東寺講堂御仏所被籠御舎利員数』などの運慶関係史料、静岡・願成就院所蔵五輪塔形銘札との関係を検討することにより、運慶作品に東寺講堂諸尊蔵が、仏舎利信仰を結節点として、多大な影響を与えていることを明らかにした。以上の成果については、特別展「運慶―中世密教と鎌倉幕府―」の図録の総説や、別冊『太陽』の「運慶　時空を超えるかたち」に、その概要を記したが、今後はこの問題について継続的に研究を行い、論文・報告書等で報告したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①瀬谷貴之・横内裕人・増記隆介・川瀬由照・井上大樹・奥健夫、［座談会］南都仏教と鎌倉彫刻、『日本の美術』奥健夫著「奈良の鎌倉時代彫刻」所収、査読無、第５３６号、２０１１年、８３～９４頁、

②瀬谷貴之・内藤浩之、「いまこそ見たい！鎌倉の仏像２０選」、『芸術新潮』「永久保存版　大特集いざ鎌倉　武家の都の祈りと美」、査読無、通巻７３１号、２０１０年、３２～７３頁、

③瀬谷貴之、金沢称名寺における予言と調伏のかたち―弥勒と愛染―、『仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書』、査読有、第３７冊、２０１０年、７～１０頁、

④瀬谷貴之、［調査報告］龍華寺所蔵　大日如来坐像、『金澤文庫研究』、査読有、３２４号、２０１０年、２１～３４頁

〔学会発表〕（計２件）

①瀬谷貴之、金沢称名寺における予言と調伏のかたち―弥勒と愛染―、仏教美術研究上野記念財団助成研究会、２００９年１０月２３日、京都国立博物館

②瀬谷貴之、運慶作大威徳明王像をめぐる二、三の問題、美術史学会、２００８年７月２７日、成城大学

〔図書〕（計４件）

①瀬谷貴之、神奈川県立金沢文庫、『運慶―中世密教と鎌倉幕府―』（神奈川県立金沢文庫図録）、２００８年、６４頁

②瀬谷貴之・山本勉・横内裕人・佐々木あすか・奥健夫・岩田茂樹・山口隆介・藤岡穣、平凡社、別冊『太陽』１７６「運慶時空を超えるかたち」山本勉監修、２０１０年、１７６頁（５０～６３、７６～８９、１３６～１４３、１４８～１５１頁）

③瀬谷貴之他、中央公論美術出版社、『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代　造像銘記篇　補遺及び第一期総目録』、２００９年、９３頁（５～９頁）

④瀬谷貴之、神奈川県立金沢文庫、『釈迦追慕―称名寺釈迦如来像造立７００年記念―』(神奈川県立金沢文庫図録)、２００８年、６４頁

６．研究組織

(1)研究代表者

瀬谷貴之（SEYA TAKAYUKI）
神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員
研究者番号：５０４４３４１１